

## 盧溝橋事件と中国との戦争

昭和十二年七月七日、深夜、北京郊外の豊台に駐屯する日本軍のシナ駐屯軍歩兵第一連隊の一個中隊が、付近の盧溝橋北方で演習中、射撃を受けた。

中隊では兵一名が行方不明ということから損害が出たと判断し、連隊長の牟田口廉也の指示のもと、日中兩軍が衝突。

日中戦争の発端となる。(実は行方不明の兵一名は用便のためで後隊列に戻る)。

この事件をきっかけにして、中共、国府は、対日抗戦を決定。

また、軍中央、シナ駐屯軍に対し武力行使を指示。

翌、八月には、東シナ海を越えて南京渡洋爆撃を強行、本格的な戦争に突入する。

八月末、近衛内閣は「国民精神総動員」と銘打って、全面戦争開始と共に、強力な国民精神総動員実施要綱を決定した。

九月に入って「愛国行進曲」が発表され、国民の戦意を向上させる処置は、確実に進められて、長い戦争時代が始まることになる。

当初、シナ事変と呼ばれた、この戦争は、シナの首都南京が陥落すれば「片がつく」と考えられていたが、翌年になつても方がつかず、近衛内閣は「蒋政権を相手にせず」などの声明によつて、泥沼化し、更に揚子江を遡る作戦を実行しなければならなくなり、何時果てると知らぬ泥沼状態に陥ってしまった。

## 林立する戦死者の墓碑

この戦争で、福島町の並みに、多くの戦死者の墓碑が林立するようになった。

史料によれば。

吉田正精・福田 穰・福田 勲・村吉正義・朝日敬照などの墓碑が街道に沿って建立される事になった。

大陸での戦争は、強兵と言われた、金澤の第九師団は、逸早く動員され。

上海攻略、南京占領など多くの戦線で功績をあげ、更に、揚子江を遡り、武漢三鎮と呼ばれた、内陸部まで進入した。

南京入城の九師団精鋭

